



## 明治維新以来の大改革

浜中町立茶内小学校長 富田直樹

タイトルを御覧になって何事かと感じられた方もいらっしゃると思います。これは國學院大學人間開発学部初等教育学科教授の田村学氏の言葉の一部で、今回の学習指導要領の改訂について次のようにコメントしています。



今次学習指導要領の改訂は、明治維新以来の大改革であるから、学校現場にも大きな意識改革が求められる。

「学習指導要領」は、戦後、試案として作成されましたが、大臣の告示となって示されるようになったのは昭和33年のことです。その後、約10年ごとに見直され、改訂が行われてきました。これまでの改訂の特徴をまとめると次のようになります。皆さんの小・中学校時代を振り返ると、「そうだったね」と思い当たることもあるのではないのでしょうか。

- 昭和33年～35年改訂 **教育課程の基準としての性格の明確化**  
→道徳の時間の新設、系統的な学習を重視、基礎学力の充実、科学技術教育の向上等
- 昭和43年～45年改訂 **教育内容の一層の向上**  
→教育内容の現代化、時代の進展に対応した教育内容の導入（算数における「集合」の導入等）
- 昭和52年～53年改訂 **ゆとりのある充実した学校生活の実現＝学習負担の適正化**  
→各教科等の目標・内容を中核的事項に絞る
- 平成元年改訂 **社会の変化に自ら対応できる心豊かな人間の育成**  
→生活科の新設、道徳教育の充実等
- 平成10年～11年改訂 **基礎・基本を確実に身に付けさせ、自ら考えるなど「生きる力」の育成**  
→教育内容の厳選、総合的な学習の時間の新設等
- 平成20年改訂 **知識・技能の習得と思考力・判断力・表現力等の育成のバランスを重視**  
→外国語活動の導入、言語活動や理数教育等の充実
- 平成29年改訂 **未来社会を生きるための資質・能力の育成の具体化**  
→「社会に開かれた教育課程」の実現、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善等

私が小・中学校に通っていた頃、「勉強ができる」というのは、それまで習ったことをペーパーテストに、いかに早く正確に再生できるかということでした。これは、明治時代の学制の公布以来、日本の学校教育が知識や技能の習得を中心に置いて教育課程を編成・実施していたからだと考えます。なぜなら、これまでの時代は、たくさんの知識を暗記し、指示を確実にこなし、同じような行動を間違いなく行える人材が求められていたからです。

しかし、人工知能（AI）との共存が求められるこれからの時代においては、手に入れた知識を活用し、出会ったこともない問題状況を自分の力で解決したり、様々な考えの人と新しいアイデアを生み出したりする人材が必要になってきます。そうした人材こそが、未来社会の創り手となりえるのだと考えます。

そのために、学校としてどのような教育課程が求められているのか。これまで以上に本気で向き合わなければなりません。